

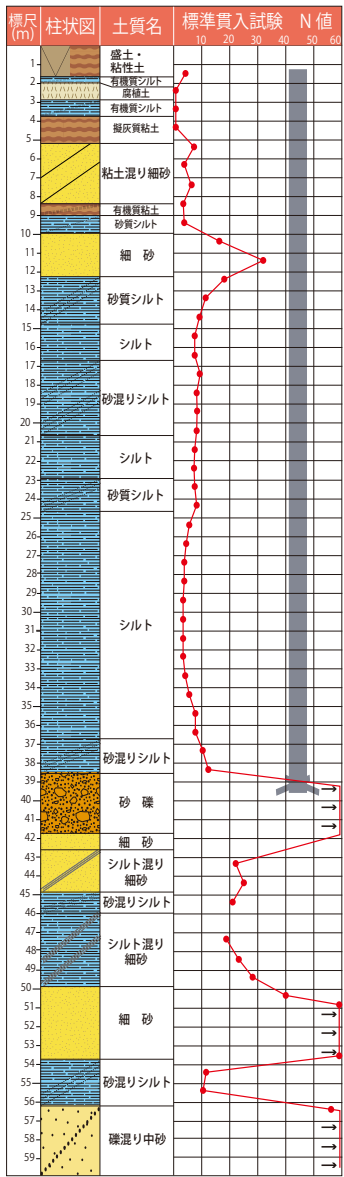
浦和 CSB ビル 新築工事

近隣に飛散物がなく施工できるG-ECSパイル工法が採用されました。

現場は、鉄骨7階建ての複合ビル。G-ECS/パイル工法の採用で、セメント、固化材を使用しないため、近接建物や通行人への飛散物が無く安全・安心に施工できました。また、前面道路が狭く(片側1車線、2車線道路)交通量が比較的多い現場でしたが、鋼管杭の使用で搬入車の台数が少なくすみしました。下部層支持の場合56mまでの打設が必要でしたが、G-ECS/パイル工法で中間層支持が可能となり、39.48mまでの打設となりました。



ボーリング柱状図



構造物概要		G-ECS パイル工法	
名称	浦和 CSB ビル 新築工事		
施工場所	埼玉県さいたま市浦和区	杭の種類	φ318.5
用途	店舗・事務所ビル	杭長	39m
構造	S造7階	本数	15 本
設計支持力	1070.2kN	杭先端深度	GL-39.48m
先端 N 値	43	施工年月日	2020 年 4 月 (8 日間)

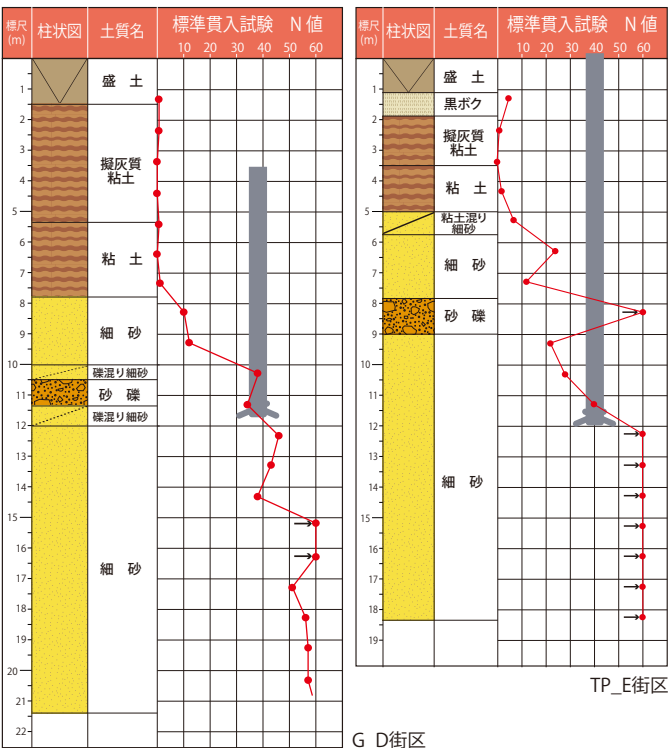
下北沢高架下 店舗工事

元請様と綿密な打合せを重ねながら工法を使い分けて施工しました。

昨年3月30日に開業した京王井の頭線高架下商業施設「ミカン下北」の複数店舗工事。鉄道高架下で、施工地盤をひな壇のように造成していただいたの施工でした。複数棟あり、棟ごとに基礎形状も異なる案件で、G-ECS/パイル工法と柱杭一体工法のECS-TP工法を組み合わせる施工しました。杭種も多様、現場の進捗に合わせた杭材製作が必要であったので、手配や整地段取り等、施工管理だけではなく、協力業者も含めた三誠の総合力を問われる現場でした。



ボーリング柱状図



構造物概要		G-ECS パイル工法、ECS-TP 工法	
名称	下北沢高架下店舗工事		
施工場所	東京都世田谷区	杭の種類	φ190.7、φ216.3、φ267.4、φ318.5、φ355.6
用途	店舗	杭長	6m~11m
構造	S造2階・S造5階	本数	220セット
設計支持力	296kN~1296kN	杭先端深度	1SL-9.4m、1SL-12.4m、2SL-11.7m
先端 N 値	31~50	施工年月日	2020 年 8 月~2021 年 7 月 (69 日間)

株式会社 三 誠
SANSEI INC.

本社
TEL：03-3551-0211 FAX：03-3551-0217
ホームページ <https://sansei-inc.co.jp/> メールアドレス info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル9階 編集・発行 / 株式会社 三 誠 SANSEI NEWS 事務局

お問い合わせは、メール info@sansei-inc.co.jp
または、FAX 03-3551-0217 (担当 営業管理課 小林) まで

SANSEI NEWS

編集・発行人 / 株式会社三誠 SANSEI NEWS 事務局 本社〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル9階
TEL：03-3551-0211 FAX：03-3551-0217 ホームページ <https://www.sansei-inc.co.jp>

2023 July Vol.40

拡大翼の特殊部、翼部の板厚を抑え、コストダウンに貢献します。

昨年リリースした N-ECS パイル拡大翼は、「中間支持層止めの可能性を広げた」と、ご好評をいただいておりますが、今年はさらに提案の幅を広げられる **N-ECS パイル拡大翼[ケース 3]** (以下、[ケース 3]と略)をリリースします。これにより、従来の N-ECS パイル拡大翼を[ケース 1]とし、[ケース 1]と[ケース 3]を設計条件により使い分けていくことが可能になりました。

新製品[ケース 3]の特徴は、杭の軸の特殊部と翼部の板厚を抑えたことです。現在の[ケース 1]の杭径φ165.2～φ508.0 の杭すべてに[ケース 3]を適用することが可能です。特殊部と翼部の板厚は、杭径により異なりますが、特殊部では 2.2～3.3 mm 薄くなり、翼部では 3～9 mm も薄くなることで、より経済的な設計が可能となります。

この理由として、杭先端の設計 N 値は[ケース 1]の場合 5 ≤ N ≤ 50 (長期) が適用範囲であったのに対して、[ケース 3]では 5 ≤ N ≤ 30 (長期) の範囲としているためです。N 値が 30 程度の中間層では、従来の[ケース 1]がオーバースペックになっていることもあったため、このような地盤には[ケース 3]が最適な杭であると考えられます。

「最適な杭の提案」という思想で三誠の杭を進化させています。

当社が開発した最初の杭は、2003 年の 3 月に国土交通省の大臣認定を取得した E C S パイルでしたが、このときはまだ、φ114～φ165 の細い杭でした。その後、砂質地盤、礫質地盤に対応できる杭づくりを目指し、翌 2004 年に翼の後ろをカットし、先端を丸くした G-ECS パイルを発売しました。この G-ECS パイルが市場に受け入れられることで、現在の三誠の基盤ができました。

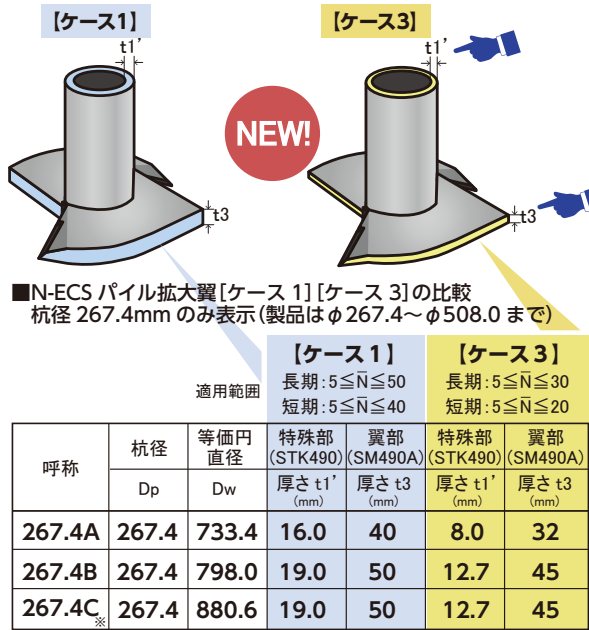
弊社の杭は「お客様のニーズを満足し、設計条件に適応した最適な杭で社会を支える」という思想をもって開発しています。その思想を追求することで、G-ECS パイルは「より大きな径へ」、「より多様な地盤(粘土質地盤)へ」製品開発が進められることになったのです。

そして、2019 年にはより粘土質地盤に適した杭として翼形状を変えた N-ECS パイルを開発し、その後も、砂質地盤・礫質地盤対応の N-ECS パイル

新商品情報

N-ECS パイル 拡大翼 [ケース 3]

中間層止めの提案幅が
より一層拡大します。
さらに最適な杭の提案が可能になりました！



※適用範囲: [ケース 1 のみ] 長期 N ≤ 50、短期 N ≤ 33

の開発や拡大翼化・大径化を進め [ケース 1]→[ケース 3]という進化の歴史を辿りました。

営業、技術、設計、3 本部の連携で最適な杭の開発、設計、市場開拓を行います。

当社の杭は摩擦力に期待しない所謂「支持杭」ですが、杭先端の地盤に求められる N 値は建物の規模や重量によって異なります。中小規模の建物であれば、深い位置に存在する支持層に依らず、場合によっては途中にある N 値 20～30 程度の中間層を支持層とすることも可能です。

この**中間層止めに効果的な杭**は、「かねてよりお客様から強く望まれていた」(取締役営業本部長・高浜通)もので、その市場ニーズを技術本部に伝えました。技術本部は、実験を繰り返し、国土交通省大臣認定を取得するまでを担当。「[ケース 3]の開発には、苦労と工夫を重ねた標準翼の粘土質地盤対応 N-ECS パイルの大臣認定取得の経験が大いに役立った」(常務取締役技術本部長・小林俊夫)と営業本部からのバスを受けました。

設計本部は「大臣認定の審査が通りそうな段階から、これまでの杭設計データと照らし合わせながら仕様書に仕上げる。[ケース 3]では、建物の重さを支える鉛直方向に重点を置いて設計を行った」(取締役設計本部長・野中勇吾)という 3 本部連携プレーの成果です。

地震動による水平方向の揺れに対する抵抗力は、杭の板厚や本数を増やすことや、高強度の STK540 材の杭を使用

することで対応できます。
STK540 材使用の場合には、杭の本数を抑えた設計が可能となるので、より経済的な提案をお客様にすることができ

ます。製品のラインナップが増えることで、設計や製品管理などの仕事は増加しますが、お客様の要望に応えるための選択肢が多くなり、より経済的な提案、より満足度の高い提案が可能になります。

三誠の杭は、もともと残土を生ぜず、騒音も少ない地球環境に優しい杭でしたが、鋼材使用量を減らすことができる[ケース 3]は、世界的課題である SDGs にも貢献する杭と言えます。

Topics

千葉出張所はこれまで J R 京葉線「千葉みなと駅」近郊で業務を続けておりましたが、この度 J R 千葉駅から徒歩 8 分ほどの移動に便利な新オフィスに移転し、8 月より業務を開始いたします。
出張所所長の森田功二(東京支店 東関東営業部)兼務は、
「心機一転、これまで以上に皆様のご期待に添えますよう、一層の努力を重ねてまいります！」と、大いに張り切っております。改めてよろしくお願いたします。



<新住所>
〒260-0016
千葉県千葉市中央区栄町42-11
日本企業会館716号室

3会場に分かれて4年ぶりの販売店会を開催 2023年度は、売上210億円を目指し好発進

79社にご参加いただき、
対面でのミーティングを実施

3年に渡った新型コロナウイルス禍の影響で、一堂に会しての販売店会は中止せざるを得ませんでした。本年はようやく対面での販売店会を実施することができました。しかし、万が一の感染拡大を考慮し、3会場に分け、1社1名様に限定しての開催でした。

■西日本・九州地区販売店会 5月16日(火)

「新大阪フシントンホテルプラザ」

■東京地区販売店会 5月18日(木)

「ロイヤルパークホテル」

■東日本地区販売店会 5月22日(月)

「ザマールグランドホテル」

この3会場に計79社の販売店様にお集まりいただき、密度の高いミーティングを実施しました。

閉会後は、会場を変えての懇親会。販売店の皆様と弊社スタッフがお互いの笑顔を見ながらの楽しいひとときで英気を養いました。

新年度は売上210億円達成の見込み

社長・丹羽伸治挨拶要旨

2019年2月に就任し皆様のご支援を賜り、丸4年が経ちました。就任初年度は消費税の引き上げと東京五輪特需の終了による建設需要の停滞。その後はコロナ禍の大混乱と世界経済停滞。加えて昨年は東欧で戦争まで起き、資材の暴騰に続き、エネルギーも不足し高騰する、といったなかなか経験出来ない環境の中を必死に泳ぎ抜いて参りました。今日こうしていられますのは、一重に皆様方のお陰と衷心より感謝申し上げます。

就任初年度の2019年度の売上は、前年度の170億円から1割以上ダウンの150億円になりましたが、販売店の皆様の多大なご尽力で、弊社社員の頑張り、2020年度は160億円、2021年度は172億円と回復でき、2022年度には、過去最高売上の194億円を達成で



報の社内外共有。T.P.工法を活かした新商品パッケージへの取り組み。

●工事本部長 佐藤孝
(入江開発本部長が代行説明)
現場数の増加、稼働日数の増加は過去最高水準。NECSパイプ拡大翼の登場で、高トルク施工機の稼働が増加。嬉しい反面、施工機械のやりくり工夫が必要。

●購買本部長 高橋浩
2022年度に、φ318・5以上の大径杭の発注数が55%と過半数。製作工場のライン新設、設備自動化により生産量5万t体制の確立。本年9月から福山工場稼働予定。

●開発本部長 入江弘延
T.P.工法を使用した杭Ⅱ上部構造一体のフエンス事業の拡大。脱炭素事業事業者へのアプローチで市場開拓。土木分野の協業を増やし、新市場を開拓。

弊社各本部長による現況説明、今後の課題、目標説明

弊社の6本部の本部長が行った各本部の現況説明。新商品・新技術説明。今後の課題や目標の説明などの骨子のみを紹介いたします。

●営業本部長 高浜通
新商品のNECSパイプ拡大翼が、大型物件の成長に大きく寄与。中間層止めの可能性を広げ、コストダウンに貢献。

●営業本部長 高浜通
新商品のNECSパイプ拡大翼が、大型物件の成長に大きく寄与。中間層止めの可能性を広げ、コストダウンに貢献。



▲さらなる飛躍を願って全員で乾杯

2022年度 ベースボールコンテスト表彰

2022年度 MVPに輝いた
サンテクノの
山本眞吾社長 (左)



2022年2月1日(2023年1月23日)の期間で、2022年度のベースボールコンテストを実施。90社様にご参加いただき、全国6リーグに分かれて、各地で熱戦を繰り広げていただきました。

その結果 MVPを、関西・中部リーグ1位のサンテクノ株式会社様が獲得し、弊社社長の丹羽より表彰状と賞金を授与いたしました。受賞者のご挨拶は、西日本・九州地区販売店会では、サンテクノの代表取締役・山本眞吾社長、東京地区販売店会では、西東京リーグ1位の前田商事有限会社の専務取締役・前田涼様、東日本地区販売店会では、北海道・東北・新潟リーグ1位の株式会社北雄産業の常務取締役・佐藤昌平様からいただきました。



▲西東京リーグ1位の前田商事の前田涼専務と弊社社長・丹羽



▲北海道・東北・新潟リーグ1位の北雄産業の佐藤昌平常務

2022年度 ベースボールコンテスト 最終結果

MVP サンテクノ株式会社様

西東京リーグ

- 1位 前田商事有限会社様
- 2位 総合地質株式会社様
- 3位 マックスコーポレーション株式会社様

東東京リーグ

- 1位 株式会社タケミ企画様
- 2位 京橋物産株式会社様

関東リーグ

- 1位 株式会社山井アーバンテクノス様
- 2位 日建工業株式会社様
- 3位 三建産業株式会社様

関西・中部リーグ

- 1位 サンテクノ株式会社様
- 2位 横井クレーン株式会社様
- 3位 ジャパンパイル株式会社 中部支店様

北海道・東北・新潟リーグ

- 1位 株式会社北雄産業様
- 2位 株式会社本久様
- 3位 藤村クレスト株式会社 新潟営業所様

中四国・九州・沖縄リーグ

- 1位 株式会社グランド技研様
- 2位 株式会社伊予ブルドーザー建設様
- 3位 山田商事株式会社様

ゴールデンクラブ賞

- 1位 ジャパンパイル株式会社 中部支店様
- 2位 株式会社伊予ブルドーザー建設様
- 3位 サンテクノ株式会社様



今年3名が
増強されました！

リモートで過ごした大学生活

「対面」の重要性 楽しさを痛感

日塔 麗

就活イベントでお会いした、三誠の皆さんの温かさに惹かれました。また、会社の仕事に関するお話から、杭で建物や社会を支える業務内容に、強く興味を感じて応募しました。

サッカーを小・中学校で続け、高校からはフットサルとバドミントンで体を動かしていました。大学では経営学部でマーケティングを専攻。大学2年生のときに新型コロナウイルス禍が始まり、授業などすべてがリモートでの作業でしたので、新入社員研修以降、直接お会いして仕事ができることを、とても嬉しく感じています。

杭のビジネスに関しては、経験も知識もまったくありませんが、反面、すべてのことが新鮮に感じられ、先輩や上司の話をしっかりとメモにとり、帰宅してから復習を続けています。

最近のマイブームは、友人とのサウナ・ローメン・ミニドライブの3点セットです。

資格取得でスキルアップ

会社と社会に貢献できる人材に

又野 稜太

中学校では野球部、高校ではラグビー部、大学ではアメリカンフットボール部に所属していました。アメフトで足を負傷しましたが、その後は、キックボクシングにも熱中しました。

経営学部で、戦略マネジメントコースに進み、ゼミでは地域創生を学び、地域のタクシー会社と提携してイベントを企画。キッチンカーや農家の方を集めて縁日を開くなど、マネジメントのノウハウや接客を学ぶことができました。

コロナ流行後は、釣りに熱中。サバ、サケ、ホッケ、カレイ、ソイ、アブラコ、メバルなどを中心に毎週末楽しんでいました。会社には釣り部があるので、入部して本州での釣りを満喫したいと思っています。



▲左から日塔 麗、又野 稜太、吉野航平

仕事では、スキルアップのために資格取得を目指し、誰からも頼られ、会社と社会に貢献できる人材になり、最終的には役員になれるように努力していきます。

スーツに関しては教えられます

仕事をたくさん教えてください

吉野 航平

幼稚園から高校まで、14年間サッカー一筋に楽しんでいました。大学では、観光産業学科で、環境に配慮し、自然や地域の農家などと触れあって旅行をする、グリーンツーリズムをゼミや授業で勉強しています。

就活イベントで、数社の仕事に興味をもちましたが、調べていく内に、三誠で「新しいことに挑戦したい」という気持ちが強くなりました。三誠の皆さんは、わからないことを聞いても、丁寧に教えてくれるので、日々新しい知識を身につけることができます。いろいろな教えていただきながら早く仕事を覚え、大きなプロジェクトに携われるようになりたいと思っています。

大学生のときに、スーツ屋で4年間アルバイトをしていたのでメンズドレスの知識があります。ビジネスからカジュアルまで、わからないことがあったらいつでも話しかけてください。



工事本部 東日本工事部 工務技術課
和田 脩平

考えることが最も重要な「縁の下」の力持ち

中学時代はバドミントン部で汗を流し、高校・大学では某回転寿司チェーン店でアルバイトを続けました。大学での専攻は工学部建築学科の材料工学で、セメントなどを調査し、コンクリートの試験体を作成して圧縮試験などの実験をしていました。大学の友人に三誠を教えてもらい、新卒入社しました。

現在の工務技術課の仕事は、施工計画書の作成、安全書類の作成、CADを使用して施工計画図を作成する業務で、「縁の下」の力持ちであることを強く意識しています。

施工案件は同じものは全くなく、常に新しい施工条件に向き合い、配置図などを通して検討、計画を進めることが重要。そのために

設計本部 東日本設計課 北関東営業所駐在
榎本 夏菜子

「日々、悔いのない杭を打つ！」「モノづくりが大好きです。」

大学では建築学を専攻し、研究室では主に鋼構造を学んでいました。勉強はアカデミックで、頭を酷使していましたが、実験作業は鉄骨梁を運んだり、ボルト締めなどの肉体的作業。文武両道の二刀流です(笑)。

三誠の工事実績に、民間から公共工事まで幅広いジャンルがあるのが魅力でした。杭という建物の一部分に特化した仕事ですが、幅広い案件に関われるのが魅力で入社しました。現在の仕事は、杭の検討業務。いただいた地盤情報や建物の荷重資料をもとに、最適な杭の径、本数、長さの提案を行っています。勤務地が埼玉県の営業所なので、営業部員との同行営業や、製品説明会での新製品説明PRイベントに同う機会も増えています。所属している設計本部は、地盤や建築のプロ集団



団ですが、営業所は営業課、工事課、業務課と設計課がひとつの職場で仕事をしています。それぞれが自分の役割をこなすスワッチチームのようですが、和気あいあいとした大学のサークルのような楽しい雰囲気もあります。

最適な杭を提案するために、専門知識、周辺知識を増やし、足元を固めて、探究心を持って仕事をし、いずれ新規事業に取り組むのが目標。「悔いのない杭を打つ」を心がけています。

休日には、家で料理。「残った材料をうまく処理するために、何をつくるか」と考えることが頭の中の整理になります。調理方法はレシピサイトで調べてやれば、だいたいはうまくできますが、正解がわからないところは試行錯誤。結局、「モノづくり」が大好きな私です。